

## 俳句をつくる①

窪田英治先生

実施日：令和3年7月13日（火）



第8回目は、窪田英治先生を講師に招き、俳句の作り方を教えていただいた。「五七五」の短い音の中に、個人的体験・社会的背景・作り手の好みなど、大事なものがたくさん詰まっていることを知った。特に、「俳句はプラス思考（指向）がよいこと」や「対象物を意識して見たり聞いたりすること（好奇心）が大切である」ということを学んだ。同じものを見ても、見る人によって見え方や切り取り方は変わり、一句として同じものはできないということから、“個性”を大切にすることを教えていただいた。後半は、「コロナウイルス」や「洪水」、「身の回りの出来事」などを題材に、真剣に考える生徒の姿が印象的だった。

## 【生徒の授業日誌より】

・俳句はとりあえず五七五だったら大丈夫だと思っていたけど、窪田先生の話やプリントを見たりして、俳句はいろいろ考えて短い文で書かなきゃいけないんだなと思った。

・俳句は「創造力」が大事。何か目的を選んで意識して見て、聞いて、プラス思考に好奇心を持って作る。俳句を作ることで「想像力」「創造力」が柔軟になって、発想が豊かになる。俳句を作る際はただ作るんじゃなく、日本語を大切にすることを意識するととても楽しくおもしろい俳句が作れる。

・俳句は五七五で書いたらいいと思っていたので、季語を入れないといけないと聞いて驚いた。なんでもプラス思考という考えがとても良いと思った。創造力を大切にしたいと思った。

・俳句の基本的なことから、どのようなことを入れれば相手に内容が伝わるのか知れてよかった。俳句を作るうえで大切にしておきたいことなど、詳しく学ぶことができたのでよかった。

・何事にも目的意識を持って行動することが大事なんだ、と学びました。また、常にマイナス思考で人生をつまらなくするのではなく、プラス思考で考え、人生を楽しみましょうと思いました。